神戸新聞　2018年（平成30年）11月5日　月曜日

バスケットボール

全国高校選手権県予選

バスケットボールの全国高校選手権兵庫県予選（神戸新聞社後援）最終日は4日、男女の決勝が西宮市の県立総合体育館であり、男子は報徳が4年ぶり2度目、女子は市尼崎が2年連続5度目の優勝を飾った。

男子の報徳はコンゴ出身の1年コンゴローがゴール下を制圧し、53―39で神戸科技に快勝。女子の市尼崎は高さを生かして内角を攻め、75―69で神戸龍谷に競り勝った。

男女の優勝校は、12月23～29日に調布市武蔵野の森総合スポーツプラザで行われる本大会に出場する。

【男子】決勝

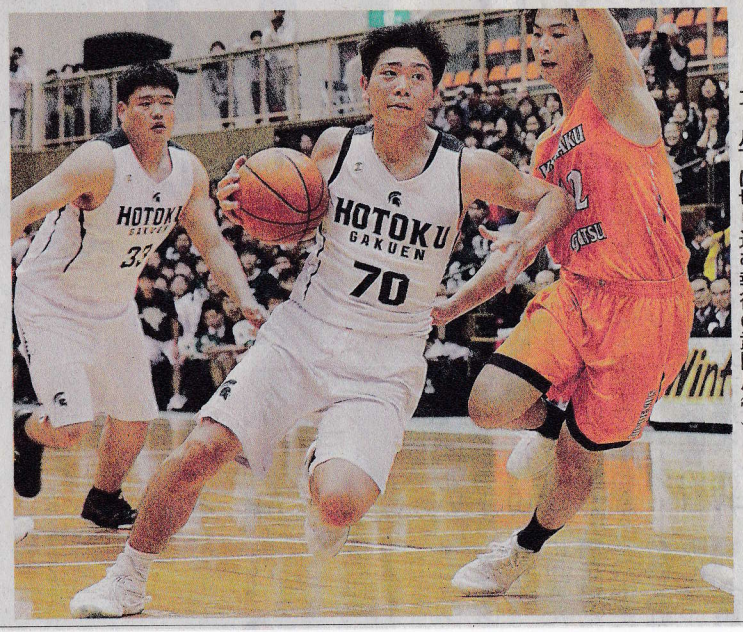
報徳	12	14	11	16	53
神戸科技	9	10	14	6	39

【女子】決勝

市尼崎	18	14	19	24	75
神戸龍谷	20	14	16	19	69

堅守報徳 男子 4年ぶりV

着実に加点、優位築く



男子決勝・報徳―神戸科技　前半、相手をかわしてゴール下に切り込む報徳の武田川（70）

失点を40未満に抑える万全の守りが、王者らしさだ。男子の報徳が冬の全国切符をつかみ、田中コーチは「高校生にとって一番大きな目標。クリアして気持ちいい」と頬を緩めた。

準決勝までの反省から、この日は序盤に守りを固めた。自身がきついマークに遭った先発シューターの1年丸山は「我慢してディフェンスから頑張る」と長い腕でチェックを続け、敵の得点源を封じた。一方、208センチの1年コンゴローはリバウンドから着実に加点。優位は揺らがなかった。

今夏の全国総体は16強止まり。選手らは「これじゃ冬に戦えない」と話し合い、有力な1年生も含め「チームで守ってチームで攻める」（田中コーチ）必要性を痛感した。一丸となるため、練習からムードを高める丹羽主将は「夏のリベンジをする。ベスト16を超え、最後は優勝できるように」と誓った。（藤村有希子）

工夫重ねた攻撃 神戸科技実らず

男子の神戸科技は、工夫を重ねた攻撃も実らず、39得点にとどまり敗北。試合後、チームが静まり返る中で、先発ガードの坪井は「悔しいです」と声を絞り出した。

2メートル超のコンゴ出身選手を擁する報徳に対し、パス回しとシュートのタイミングを早めてかき回そうとしたが、シュートはブロックされ、ノーマークでも決めきれない。第1クオーター、わずか6得点で後手に回った。

「先手を取りたかったが、逆に取られた」と吉本コーチ。圧倒的な高さを誇る難敵に逃げきられ、唇を結んだ。

【報徳】

	得	③	②	自	反
丸山	3	0	1	1	0
奥田	0	0	0	0	1
多田羽	6	1	3	0	3
丹羽	3	0	0	0	0
コンゴ	24	0	11	2	1
宇都宮	0	0	0	0	0
石元	0	0	0	0	1
中島	0	0	0	0	0
堀畑	0	0	0	0	1
武田川	12	0	5	2	0
亀井	0	0	0	0	0
冼	0	0	0	0	3
井藤	5	0	2	1	3
計	53	1	22	6	10

【神戸科技】

	得	③	②	自	反
中嶋	2	0	1	0	1
草本	0	0	0	0	0
大杉	0	0	0	0	1
坪井	6	0	3	0	0
岸本	0	0	0	0	1
由良	2	0	1	0	1
近藤	6	0	2	0	2
島原	4	0	2	0	4
木村	2	0	1	0	1
伊藤	0	0	0	0	3
三浦	17	0	8	0	3
計	39	0	18	3	14